

本を読むのが苦手な人必見！

読みやすい小説紹介

今回、紹介する本は普段本を読まない自分でも読みやすかった2冊を紹介します！

『そして、君のいない九月がくる』天沢 夏月
KADOKAWA / メディアワークス文庫

*表紙画像は出版者の許可を取って掲載しています。

友達の死から始まった苦しい夏休み。僕らは、幽霊に導かれて旅に出た。

その夏、恵太が死んだ。

幼いころからずっと恵太と一緒に育った美穂と、

仲良しグループだった大輝、舜、莉乃たちは、

シヨックから立ち直れないまま呆然とした夏休みを送っていた。

そんなある日、美穂たちの前に現れたのは、死んだ恵太に瓜二つの少年、ケイ。

「君たちに頼みがある。僕が死んだ場所まで来てほしい」

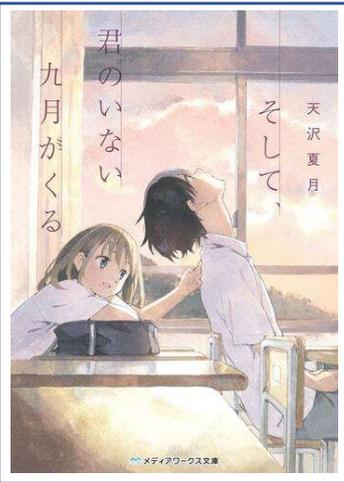
戸惑いながらも、美穂たちは恵太の足跡を辿る旅に出る。

旅の中でそれぞれが吐き出す恵太への秘めた想い。嘘。嫉妬。後悔。恋心。

そして旅の終わりに待つ、意外な結末とは――。

隠された想いを巡る、青春ミステリ。(公式HPより)

この本の面白いところは、いろいろな人の視点から「恵太」という人物を、抱いていた感情が明らかになって行くところです。
「意外な結末」は本当に驚きました！
是非とも読んでみてください。



『スターティング・オーバー』三秋 隼

KADOKAWA / メディアワークス文庫

二周目の人生は、十歳のクリスマスから始まった。全てをやり直す機会を与えられた僕だったけど、いくら考えても、やり直したいことなんて、何一つなかった。僕の望みは、

「一周目の人生を、そっくりそのまま再現すること」だったんだ。

しかし、どんなに正確を期したつもりでも、物事は徐々にずれていく。幸せ過ぎた一周目の付けを払わされるかのように、僕は急速に落ちぶれていく。

――そして十八歳の春、僕は「代役」と出会うんだ。変わり果てた二周目の僕の代わりに、一周目の僕を忠実に再現している「代役」と。

ウェブで話題の新人作家、ついにデビュー。(公式HPより)

この本は、のめりこむように読みました。最後の結末では、「読み切った」という達成感が残る良い1冊でした。借りないで買えば良かったと思うような1冊です



コラム「元日」と「元旦」

あなたは、元日と元旦の違いを知っていますか？

元日は、もちろん「1月1日」のことを指します。では、元旦は？

元旦は、「1月1日の午前中」を指します。「旦」の字が「太陽と地平線」を表しています。

間違っても、「元旦の朝」と使ってはいけませんよ。